

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 佐久穂町立海瀬保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○佐久穂町の保育理念に基づいた上で、児童福祉法、児童憲章、児童の権利条約、保育所保育指針に基づいて、本園を取り巻く保育ニーズ等の状況や子どもの姿を踏まえた保育課程が作成されていました。</p> <p>○保育課程を保育計画には、1年を通して偏りのない保育を目指せるような月案から週案、個別指導案が一貫性をもって計画実践されていました。</p> <p>○計画活動は、細切れにならないよう常に保育目標に立ち返るための、全職員の園内研修が定期的に行われており、評価・反省を生かしながら保育を進めていました。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○保育園の立地環境や園舎・園庭等は、園児が安全で清潔で安心感をもって過ごせるような場として整備されており、保育園は、その恵まれた環境を十分に活かした保育を実践していました。</p> <p>○園舎・保育室は、広く明るい環境で、内装や設備も木材をふんだん利用して、園児の育成環境に配慮した設備として整備されていて、どの園児にとっても、心地よく集中しやすい環境となるよう、制作物の展示方法もすっきりした工夫がされていました。</p> <p>○保育室や廊下、手洗い場、トイレ、遊戯室もエアコンが設置され、広く明るい雰囲気設備環境として整備されていて、園児たちが心地よく利用できるように整備されていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○一人ひとりの園児の状態に応じた保育支援に適切に対応しようとする仕組みがあり、子どもの発達の状況や個人差を職員全員が共有し担当する子どもだけではなく、園全体で一人ひとりの子どもを受容していることが指導計画書や職員インタビューでもうかがえました。</p> <p>○訪問調査時に園児への言葉がけは、遠くからではなく、常に子どもの近くに寄り添いながら丁寧で適切な関わりが見られました。</p> <p>○子どもへの理解受容など、もっと学びたいという職員の声も聞かれましたが、保育はこれによし、ということはないので、更なる高みを目指していただければ幸いです。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○園児の自力発達を促すために、一人ひとりの発達過程、個人差に配慮しながら家庭との連携を密にして、どの子も「自分でやってみよう」という意欲が育つよう必要な援助をしていることを、個別指導計画書や職員インタビューでも確認しました。</p> <p>○生きる力の源となる基本的な生活習慣の育ちを目的とした保育計画が作成され、保育と教育を一体化を意識した保育が実践されています。</p> <p>・遊びを楽しみながら着脱の習慣を身につけたり、楽しい雰囲気の中で清潔習慣を習得させていこうとする思いが職員インタビューでも確認できました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○県創設の信州型自然保育認定制度（やまほいく）に認定され、自然体験保育を実践している。年間を見通した立案により、庭園の畑での野菜の栽培や収穫、戸外保育で収穫した自然物をその後の保育に生かす食育や創作活動などの取り組みもあり活動に一貫性がありました。</p> <p>○戸外活動の際は、事前に危険個所の確認をするなど安全に遊びができるような配慮が認められることをインタビューで確認できました。</p> <p>○自然の中でのびのびと活動することにより、園内ではできない様々な体験を通して、困難を乗り越えようとする気持ちや友だちと協力しようとする心が育っていることを、園長や主任保育士等のインタビューで伺えました。</p> <p>○散歩や行事を通して、日常的に利用している図書館等の公共施設の職員や地域の方々等との出会いや交流の中で、親しみを持ったりマナーや社会生活のルールを経験するなど様々な体験ができていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 □ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 □ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 □ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○町の保育行政において、乳児保育については地域のニーズ等に対応して、近隣の公立保育所で集中的に対応していることで、現在0歳児の利用はないということでした。</p> <p>○園長や主任保育士、一般保育士は、乳児保育をいつでも受け入れられるように、受入れ体制に十分に配慮した体制を意識していることをインタビュー等で確認できました。</p> <p>○保育所の使命や目的には、乳児時期保育が位置付けられています。町の保育行政で利用児がいないことはしかたないかもしれませんが、一般職員の自己評価結果でも、乳児保育に関しては、「できている」「できていない」「わからない」の評価結果がありました。周知共有をお願いします。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 40	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	<p>○0歳児からの繋がりはありませんが、歩行の開始や言語の獲得、自他の区別がつき始めるなど心身の発達が著しい、1・2歳の時期に、やりたい気持ちに丁寧に向き合った、待つ保育の実践や「できた！」という思いに共感する保育士の温かい援助が個別保育計画書等で確認できました。</p> <p>○園児の自我の芽生えを適切に捉え、職員間で発達過程の理解を深める検討会を行い、適切な対応保育を実践していることを資料やインタビューで確認できました。</p> <p>○3歳児未満の発達過程における、養護と教育の一体的な保育を指導計画で明確にして、園児一人ひとりに適切に対応していました。</p> <p>○指先の発達などを踏まえて手作りおもちゃなどを定期的に更新して、園児の発達状況を保護者にも伝え、共有していることを連絡帳等で確認しました。</p>
				■ 41	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	
		■ 42		子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。		
		■ 43		子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。		
		■ 44		保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。		
		■ 46		一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。		
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 47	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	<p>○指導計画書や園長・主任保育士インタビューでは、3歳児以上の園児保育に関して、基本的な生活習慣や態度を身につけることや周囲に対する適切な行為ができることを意図した保育の実践に取り組んでいることを伺うことができました。</p> <p>○指導計画は、保育所保育指針に基づいて、生活と遊びを通して総合的に身につけられるように計画されていました。</p> <p>○3歳児以上の園児たちの家庭の状況や発達に応じて、養護と教育の一体的な保育を意識した取り組みを職員インタビューでも確認できました。</p>
				■ 48	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■ 49	5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■ 50	子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○障がいのある子どもが安全で安心して利用できるようバリアフリーに配慮した設備環境が整備されていました。</p> <p>○発達障害等、気になる子どもの情報は、町の保健師連絡会で把握していて、町のオンリーワン事業として、年2回定期的な連絡会が開かれ、養護学校の専門教員や保健師、地元小学校教員、保育士等による個別の指導計画が作成され、配慮が必要な子どもへの適切な対応支援が行われていました。保育士は、気になる園児がいた場合は、速やかに連絡会に報告する仕組みになっていました。</p> <p>○養護学校の専門教員による年2回の教育相談等で保護者との連携を密にし、医療機関の専門医師の助言を共有し実践する仕組みがありました。</p> <p>○園全体の保護者への情報提供は当該保護者の気持ちに配慮しながら慎重に対応しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○現在、30名ほどの園児が延長保育を利用して、4名の保育士が担当していました。長時間保育は、個別指導計画に基づいて、配慮された広い保育室で、保育内容や方法、保育士間の引継ぎ、保護者との連携等が適切に実施されていました。過ごせるよう工夫がみられます。</p> <p>○長時間保育は、異年齢児と一緒に過ごしたり、夕方以降の園児の疲れ等への配慮が必要になりますが、担当保育士のインタビューでは、紙工作や絵本等でゆったりと仲良く過ごしている様子が伺えました。</p> <p>○時々、保護者の迎えが保育予定時間より長くなる場合もあるようですが、保護者と連携を密にとり、柔軟に対応していることを担当保育士や園長とのインタビューで伺いました。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○町の教育委員会の「幼保小中一貫教育」において、指導計画書にも地元小学校との相互交流計画が示され、定期的な相互交流会が積極的に行われていました。</p> <p>○特に、年長児については、小学校の教員と担当保育士、保護者で連絡会を設け、必要に応じて園児・保護者と小学校訪問を行う等、子どもや保護者の就学への不安を軽減させ、期待と見通しが持てるような取り組みがありました。</p> <p>○配慮を必要とする気になる園児については、前述のオンリーワン事業の連絡会に小学校教員や担当保育士等も出席し、きめ細かい情報交換共有がされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○園児の健康管理については、マニュアルが整備されていて、計画や内容等も「園のしおり」に掲載され、保護者への周知も図られていました。</p> <p>○日々の園児の健康管理については、送迎時の保護者との会話や連絡帳により、情報を共有していました。</p> <p>○職員間の引継ぎにおいて、園児一人ひとりの様子や健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握して適切な対応に努めていました。</p> <p>○乳幼児突然死症候群については、マニュアルがあり、外部研修にも保育士が積極的に出席して、伝達研修等で情報の共有に努めていました。また、保護者には、「園のしおり」により、SIDSについての説明周知を図っていました。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○健康管理計画に基づいて、健康診断、歯科検診等各種検診が実施されていました。</p> <p>○診断結果は、個別指導計画に記録され、保護者にも速やかに通知する仕組みになっていました。必要に応じて連絡帳での情報の共有にも努めていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○「入園のしおり」アレルギーの対応マニュアルが詳細に記載され、アレルギー疾患、慢性疾患等や緊急時の対応方法・連絡体制等が保護者に説明されていました。</p> <p>○保護者の情報や主治医の医療情報は、全職員に周知徹底されていました。職員はそれぞれの役割を分担し組織的に対応が行われていました。担当保育士は、研修会に積極的に出席して、対応についての情報共有も行われていました。</p> <p>○保育士と調理員との連携、確認が確実に行われる仕組みがありました。</p> <p>○調理室の中でも調理開始前、また途中など必要に応じて何回も確認する作業手順が組まれていました。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○保育計画には、食育や食事楽しむための標準的実施方法が示され、個別指導計画にも反映されていました。</p> <p>○食育計画が作成され、調理員も含めた全職員が共有して取り組んでいました。</p> <p>○「やまほいく」の実施もあり、体を十分に動かしておなかをすかせ、おいしくいただく、という流れが保育計画の中でも位置付けられています。また、保護者には献立表とレシビが定期的に配布され、玄関前にはサンプルも展示されて、参観日等の行事には、保護者の試食会も実施されていました。</p> <p>○訪問調査時は、1時間以上の昼食時間の中で、園児たちがそれぞれのペースで和やかな雰囲気の中で、ゆったりと食事を楽しんでいる様子が見られました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○調理業務は、外注委託にしていますが、園長や保育士は、調理員と栄養士との定期的な献立懇談会で、調理方法や献立メニュー等に保育園としての意見要望を申し入れ、納得できる食事提供になっているとのことでした。</p> <p>○一人ひとり、園児の食べられる量や体調、好き嫌いを把握し、盛り付け量を配慮したりお代わりもできるように工夫していることを訪問調査時に見ることができました。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努めていました。また、園で育てた野菜も提供し、購入野菜と切り方を変えるなど子どもにわかりやすく親しみやすい提供をしていました。</p> <p>○町で作成した衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めていました。</p> <p>○調理員間及び保育士の連携がよく、時間内の提供、味付け、事故防止が徹底管理されていました。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○保育園運営や保育内容等についての保護者への説明は、入園時や保護者会、保護者懇談会及び参観日等で園長から説明しているほか、送迎時や連絡帳及び月々の園だよりや掲示板などを用いて周知に努めていました。</p> <p>○保護者アンケート結果のコメントには、園長・主任保育士は、保護者の意見や要望には適切に対応しているとのコメントが多数ありました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○保護者からの相談や意見要望については、標準的実施方法により、丁寧に対応して、記録をして、園長に報告する仕組みがあり、全職員で周知共有して、実践していました。</p> <p>○送迎時の会話や連絡ノートの活用により保護者が相談しやすく保護者からの信頼も大きいことを保護者アンケート結果で確認しました。</p> <p>○家庭の状況を把握し子育て支援の一つとして家庭の養育力も引き出すように努めたり、また、保護者の要望の中には、土曜日等の一時保育という急な依頼があっても、できるだけ対応できるように職員で周知共有していることをインタビューで伺うことができました。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○町の教育委員会の、虐待や不適切な養育態度が疑われる家庭への対応マニュアルに基づいて、虐待の早期発見、早期対応の仕組みが組織として確立していました。</p> <p>○全職員が、マニュアルに基づいて、当園時に園児一人ひとりの様子を観察し、異変に気付いた場合記録して、主任保育士・園長に報告する仕組みが定着していました。園長は、異変を確認した場合は、町の教育委員会や関係機関に報告相談する流れがありました。</p> <p>○保護者には、虐待等の児童権利侵害の事例等を保護者会等で園長が説明し、家庭の相談支援についても園長が窓口となって対応していることを資料やインタビューで確認しました。</p> <p>○定期的に虐待や権利擁護に関する職員研修会を行い、事例研修を行っていることを会議録で確認しました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○町の教育委員会が実施している職員自己評価では、保育の質の向上に向けた、日々の保育の振り返りや改善課題等の自己評価項目があり、主任保育士や園長による個別面談も定期的を実施されて、保育所全体としての保育の質の向上のための取り組みがありました。</p> <p>○自己評価結果において、必要な課題については、職員会で園長が報告し、全職員で共有する仕組みがありました。</p> <p>○職員インタビューでは、自己評価システムは、困っていることを直接、園長にも相談でき、丁寧なアドバイスもあり、有益とのコメントが多く寄せられました。</p>